

事業名	代表者所属	岡山大学大学院自然科学研究科
11KJ-023	代表者	教授 舟橋 弘晃
岡山大学農学部ジュニア講座「“ウシ”にふれよう！～まきばでウシと畜産物を学ぶ～」	開催地	岡山県
	助成金額	10万円
活動概要		
<p>日時：2011年10月8日・22日・11月5日 9:30～</p> <p>場所：岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター津高牧場</p> <p>対象：小学校2～6年生</p> <p>参加者(人)：のべ112名 内訳(保護者;47人)(生徒;65人)</p> <p>内容：ウシのブラッシング、牛舎作業、草地管理、飼料と肉質との関係、およびアイスクリーム製造実習を学び、畜産物の生産とその安全・安心を支える科学技術を理解した。</p> <p>講演;3件、発表;1件、実習;3件</p>		



ウシに触れよう



まきばを歩こう



畜産物を理解しよう



実習を終えて集合

事業の目的・ねらい

ウシを始めとした家畜種は、乳や肉を生産するために人類が飼養している動物である。家畜種に限らず、植物にしても多くの食料は、愛情を持ってそれらの生命を育むと同時に、最終的にその生命を奪わねばならない。正しい食の意味とそれに関わる諸技術を成長の早い段階から学び考えることは重要なことである。また、

今年3月の福島第一原子力発電所の事故で放射能汚染した稲わらを牛に給与したことにより、基準値を超えたセシウムが検出される牛肉が全国に出荷され、問題となるとともに、全国で牛肉を始めとした畜産品の買い控えや被災地近くの農産品の風評被害が深刻化している。今こそ食の生産と安全・安心について、またそれを支える様々な科学技術について親子で考える機会を設ける必要がある。そこで、これらのことを学ぶ機会を設けるために本事業を実施した。

事業の概要

第1回目は、先ず牧場の説明とウシの一生について話して理解してもらったうえで、参加者にウシに触れ動物の温かさを知ってもらった。牛舎の中に入り、岡山大学農学部附属山陽圏フィールド科学センター津高牧場で飼育している和牛子牛および成牛に触れ、ブラッシングすることで家畜に愛着を持ってもらった。その中で、ウシの食べものやそれに対する安全管理、IT 技術を使用した繁殖管理、さらには微生物を利用して糞のおいを消すなどの環境対策のための取り組みなどを理解してもらった。

第2回目は、何故ウシが草だけを食べて生きていけるのかについて授業をして理解を深めたうえで、実際に牧場の草地をめぐることによって、ウシが食べる草や食べない草、それらの植生について理解してもらい、放牧牛を管理する技術について学んでもらった。また、合わせて牧場周辺に生息する植物や野生動物(の足跡)を観察することで、家畜を飼育する上での課題(害獣駆逐技術などを含む)を理解してもらった。さらに、様々な種類の牛肉を食べ比べ、ウシがお肉になることやそのおいしさについて体験を通じて理解してもらった。

第3回目は、アイスクリームを実験室で作ることで、畜産物加工技術に対する理解を深めてもらった。その際、食の安全管理に対する検査技術についても理解してもらった。講義として、畜産物の衛生管理について分かり易く解説した。

実施スケジュール:

- 6月 1日 事前打ち合わせ・募集用チラシ作製、
- 8月 1日 受講者募集開始・市内の小学校への広報活動
- 9月22日 受講者決定、9月30日 実施前打合せ・準備 (10月7日直前打合せ)
- 10月 8日 9:30~9:40開講式、9:40~10:10牧場説明と講義(ウシの一生)、
10:10~11:00実習(ウシに触れる、牛舎実習)
- 10月22日 9:30~10:00 講義(ウシのエサ)、
10:00~11:00 実習(まきばを歩こう)
- 11月 5日 9:30~10:00 講義(美味しい畜産物)、
10:00~11:15 実習(畜産物を理解しよう)、
11:15~11:30 修了式

成果・効果

日本を代表するウシの黒毛和種に実際に触れ、動物の温かさや行動、それらの繁殖を管理するための最新技術や日常のエサやりなどの管理業務に触れ、どのようにして家畜が生産されているのか、それらが食用の“肉”になるのかについて、理解できたように思われる。また、まきばを実際に歩くことでウシが好んで食べる草やそうではない外来種の雑草、ウシの健康や飼料を脅かす野生動物の存在についても実際に目で見て興味をわいたようである。さらに、輸入牛肉と国産牛肉などの食べ比べをしながらそれぞれの生産のされ方や特徴などを説明すること、およびアイスクリームを作ることでウシから生産される畜産物について理解できたようである。参加者からは「いのちを頂いているのだからしっかり食べて残さないようにしたい」、「その分しっかり生きなければ」、「楽しく学べたので、また参加したい」などといった感想が寄せられ、概ね好評で満足度の高い講座となった。助成頂きましたマツダ財団様には感謝申し上げます。